

# 福祉文教常任委員会所管事務調査報告書

令和7年11月6日

別海町議会議長 西原 浩 様

福祉文教常任委員長 外山 浩司

福祉文教常任委員会における所管事務調査（行政視察）に係る福祉文教常任委員会協議会の協議結果について、次のとおり報告します。

## 記

### 1 開催日時

#### （1）第9回常任委員会協議会

令和7年11月5日（水）14時45分から15時35分まで

### 2 開催場所

委員会室1

### 3 出席委員

外山委員長、横田副委員長、中村委員、田村委員、貞宗委員、伊勢委員、吉田委員

### 4 欠席委員

なし

### 5 委員外

なし

### 6 調査事件及び協議結果

#### （1）義務教育学校上湧別学園の運営について（湧別町）

① 建設費用に関しては、中学校の校舎を活用し小学校の部分を新築した小中一貫校のため約12億円だった。今後、本町で計画中の中央小学校と中央中学校の校舎一体型義務教育学校建設には、建設資材の高騰もあり多額の建設費用が見込まれる。

② 別海町で、一番新しい上西春別中学校は、防衛省の補助金を活用している。補助対象エリアの問題があるが、中央小中学校の建設にも、防衛省をはじめ、色々な補助金を探すべきである。

③ 英語教育に前期の低学年から取り組んでいる。A E T 3名のうち1名は、湧別町で直接採用し長期間在町して教育効果を高めている。

④ 生徒の海外研修に取り組み、中学生と高校生の代表が、2週間ニュージーラン

ドとカナダに交互に行っている。高校生には、長期の3ヶ月間の研修もある。湧別高校の魅力の1つだと思われる。別海高校でも、酪農経営科だけでなく、普通科生徒も海外研修があると魅力化に繋がるのではないか。

- ⑤ スクールバスの乗車時間が最長で20分間ほどであった。また、下校時に、用事などで降りる地点を変更することも可能であった。学校で取りまとめ、スクールバス運転手へ連絡を入れる仕組であった。
- ⑥ 小中一貫校の成果として「中1ギャップの解消」などが上げられているが、「子どもの人権」を守る教育が大切である。

## (2) 地域交通実証事業「KOSHIMOTAKUSHI」の実施に至った経緯等について (小清水町)

- ① 「KOSHIMOTAKUSHI」の取組は、コールセンターを担当している事業者、網走バス・ハイヤーの強い協力があり、誕生することができたようだ。また、役場の担当課、担当者の努力があり、事業が開始できたことと思われる。
- ② 本町では、西別ハイヤーの協力が得られないようで、ライドシェアの事業取り組みは、難しいようである。
- ③ 尾岱沼地区でライドシェアの取組が進められている。現在、ボランティア運転手が10名登録。輸送エリアを決めて、別海町と標津町のハイヤー会社の事業の妨げにならないように準備している。
- ④ 役場庁舎が1年半前に完成。コンパクトな機能を目指し、工夫されていた。喫茶店、トレーニングジム、コインランドリー等が設置され、町民が行きたい役場を目指している。町民を主体に考えた町づくりが、「KOSHIMOTAKUSHI」といった成果につながっていると思われる。

## (3) その他

次回（11月25日）の委員会調査の内容について

### ①教育委員会

「小中一貫教育及び別海高等学校の魅力向上や支援事業について」

- ・別海高等学校寄宿舎視察 10：15～
- ・別海高等学校寄宿舎施設の運営状況について 11：00～

### ②別海病院

「町立別海病院の運営について」

- ・今後の産婦人科の見通しについて 13：00～

### ③保健生活部

「子ども・子育て支援について」

「ごみ処理の状況について」

- ・こども家庭センターの状況について 14：00～
- ・ごみ処理手数料について
- ・その他報告としてクマ対策について

### ④福祉部 該当なし